

地域とともに

パートナーとの協力

社員の職場環境

モールの安全管理

環境への配慮



継続的な地域社会への貢献

私たちは人々が求める真の貢献を実現するために、その地域に密着し、交流を深めることで問題を共有し、その解決に努めます。



クリーン&グリーン活動（ベトナム）

モールウォーキングイベントで地域の皆さまの健康を増進(イオンレイクタウン)

イオンレイクタウン(埼玉県)では、オープン当初から約7年にわたって、ウォーキングドクターのデューク更家氏およびデュークスウォーク講師のご指導により「モールウォーキング」を毎週実施しています(後援：埼玉県)。モールの館内を健康目的で歩くこのイベントは、毎回約70名から100名ほどのお客さまが参加され、中には2年以上にわたって毎週参加されている90歳の男性もいらっしゃいます。デュークスウォークによるモールウォーキングは、他にも全国6箇所のイオンモールで実施しています。



正しい歩き方を、楽しく学べる場に



何よりもみなさんが楽しく参加できることを大切に考えて指導をさせていただいています。長く参加している方は姿勢がきれいになり、多くの方が腰や膝の痛みが改善したとおっしゃってくださいますね。季節や天候にかかわらず快適に歩いて、段差などの障害物がなく、夜間も明るく

安全ですから、イオンモールの館内はウォーキングに最適な環境です。イオンモールさんには、いつも運営をサポートいただいています。これからも皆さまとともに、楽しみながらウォーキングの魅力を伝えていきたいと思います。

デューク更家公認
ウォーキングスタイリスト
井上 レイラ様
久保 貴鈴様

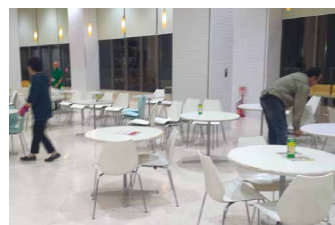


地域と連携したリユースの取り組み(イオンモール盛岡)

イオンモール盛岡(岩手県)では、2015年のリニューアルで不要となり廃棄予定だったフードコートの椅子231脚、クッション椅子20脚、丸テーブル17台について、社会福祉法人盛岡市民福祉バンク様へ譲渡。同法人様は、引き取った椅子/テーブルを身体に障がいを持つ方によってクリーニングのうえ販売し、収益は障がい者の賃金向上や雇用拡大に充てられました。廃棄物、廃棄コストの削減を実現するとともに、地域への貢献として同法人様から感謝状をいただきました。



モールの不要物を資源として有効活用できました



当法人は1975年の設立以来、障がい者が働ける場を創出するために、市民の皆さまから回収した不要物を修理・研磨して販売し、収益を福祉事業に役立てています。

ひとつの企業からこれほど大量の備品をまとめて引き取る

機会はなかなかありませんが、みんなで裏側まで丁寧に磨き上げて販売したところ、福祉関連の施設や一般のご家庭にたいへん好評をいただき、短時間で完売しました。

社会福祉法人
盛岡市民福祉バンク
常務理事兼事務局長
佐藤 敏昭様



出店による地域経済の活性化

新しいモールのオープンには地域に数千人単位の安定した雇用を創出し、税収や人口の増加にもつながります。専門店も全体の約3分の1は地域からの出店になるよう配慮するほか、多くの仕事が地元企業に発注されるなど、広範囲に効果を及ぼします。

公的サービスの拡充

イオンモールは、地域の皆さまに高い利便性を提供するために、郵便局、医療機関、自治体の行政サービス機関、銀行、外貨両替機などのサービスを導入するほか、モール内に設けられた多目的ホール(イオンホール)を成人式や確定申告の会場、選挙の投票所などにご活用いただいています。



地域の美しい環境を未来へ

「クリーン&グリーン」活動の一環として、毎月イオン・デーには、専門店従業員の皆さまとともに、モール周辺の歩道や公園、植樹帯などの清掃活動を行っています。



2015年度募金結果(全国のイオンモール合計)

■東北復興応援 空の駅 建設支援基金(2015年3月1日～2015年3月29日)	2,372,111円
■ネパール地震 緊急復興支援募金(2015年4月28日～2015年5月10日)	5,952,465円
■ミャンマー学校建設支援募金(2015年4月4日～2015年6月7日)	6,548,762円
■24時間テレビ チャリティー募金(2015年6月10日～2015年8月30日)	30,555,301円
■関東・東北地区集中豪雨被害 緊急支援募金(2015年9月11日～2015年9月30日)	7,931,026円
■イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン募金(2015年10月1日～2015年11月15日)	3,426,277円
■障がい者ものづくり応援募金(2016年2月10日～2016年3月13日)	3,876,003円
合計	60,661,945円

各モールの地域貢献事例

●まつり祭り

イオンモール太田(群馬県)

モールの駐車場を会場として、近隣のお祭り団体やお子さまの太鼓グループなど、各地の祭りを一堂に集めたお祭りを開催。世代・性別・国籍を問わず約2,000名の地域の方々が参加し、祭りの最後には八木節を会場全体で踊り、交流を深めていただきました。



●親子で学ぶ自転車教室

イオンモール浦和美園(埼玉県)

自転車の乗り方や交通ルールとマナーについて親子で学ぶ教室をモールの駐車場を利用して開催。店舗入口では埼玉県警察が交通安全に関する案内と粗品をお客さまに配布するなど、交通安全運動をあわせて実施しました。

(イオンバイク×ホンダ共催/後援：さいたま市)



●芸術祭 WAKAYAMA SALONE～竹燈夜～

イオンモール和歌山(和歌山県)

芸術祭のフィナーレとして、和歌山城および周辺で実施されている秋の風物詩「竹燈夜」を開催。竹で作った約8,000本の灯籠を並べ、キャンドルの柔らかな光が織りなす幻想的な光景がモールの水の広場を彩りました。

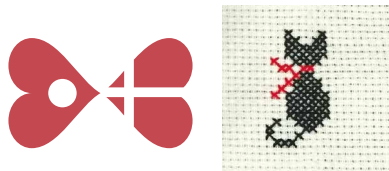


地域とともに パートナーとの協力 社員の職場環境 モールの安全管理 環境への配慮 継続的な地域社会への貢献

継続する被災地支援(宮城県東松島市)

◆「東松島ステッチガールズ」プロジェクト

2013年にタレントの岡田美里さんの呼びかけではじまり、一般社団法人 東松島みらいとし機構が運営する「東松島ステッチガールズプロジェクト」。デンマークの伝統的なクロスステッチ刺繍によって、地域の女性のための新たな産業を興し活躍の機会を創出する取り組みです。2014年6月に復興庁から「新しい東北」先導モデル事業に選出され、現在では73名の女性がステッチガールズとして活動に参加しています。当社では、震災後に取り組んできた東松島市への支援を継続すべく、首都圏のモールでワークショップや展示販売会を実施するなど、同プロジェクトの活動を広くお客さまにご紹介しています。



◆クロスステッチで東松島に新たな産業を



当初は事業化までは考えず、地域の皆さんが元気になれると思ってスタートしたプロジェクトでした。岡田美里さんや刺繍糸メーカーのDMCさんの協力を得て、おたがい技術教え合い、手が空いている人が小さなお子さんを見てあげるなど助け合いながら少しずつ活動の輪を広げ、販路の拡大や企業さんとのタイアップも進めてきました。現在では73名のメンバーのうち29名が指導者の資格「刺繍メンター」を有しています。

産業を興しただけでなく、子育て世代の女性が社会で活躍できる機会を創出したことに高い評価をいただいています。そしてこのたび、事業活動および情報発信の拠点として「DMCショップ東松島店 ステッチガールズカフェ」がオープンしました。ステッチガールズのメンバーが制作だけでなく事業全体に主体的に関わるようになり、いずれは「刺繍と言えば東松島」と呼ばれる産業に育てられたらと考えています。

一般社団法人
東松島みらいとし機構
芳賀 朋子様
福嶋 正義様



●東松島ステッチガールズのみなさん

クロスステッチは以前から好きでした。自分が作ったものが商品として誰かの手に渡っていると思うとうれしいですね。カフェの担当になって、手芸屋さんになるという子どもの頃の夢までかなえることができました。

去年から参加して、先輩から教わりながら腕を磨いています。自分で使うものではなく仕事ですから品質や納期に対する責任も感じますが、みなさんの雰囲気がとても明るく、楽しく活動できています。

家族のいない昼間に制作をしていますが、カフェに来るといつも誰かがいて、仕事以外の話もできて楽しいですね。東京に出張するメンバーがいるなど、いつのまにか活動の規模が広がったことに驚いています。

皆川 由佳様



鈴木 良子様



奥田 一美様



◆新たな交流拠点の創造をめざして

東松島・小野駅前応急仮設住宅でお母さんたちがつくるソックモンキー「おのくん」、また復興に向けた活動を継続・発展するための拠点「空の駅」の建設に、全国のイオンモールから大きなご支援をいただいています。いつもありがとうございます。「おのくん」を通じてたくさんのご縁を作ってきた仮設住宅では、すべての住民の新たな住居区画が決定し、転居に向けた準備を進めているところです。2015年5月30日にはJR仙石線運行再開に合わせて小野駅前に「空の駅」の看板を掲げたプレハブを建設し、仮設住宅と合わせて年間約2万人の方にお越しいただいています。いずれは、東松島の農

作物や海産物を味わっていただけるような「空の駅」を建設し、訪れる方と住む方の交流をさらに深めていきたいと考えています。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

小野駅前郷プロジェクト
共同代表
武田 文子様
新城 隼様



ボランティア活動に参加して

東日本大震災の復旧・復興をめざすイオングループの「心をつなぐプロジェクト」では、2015年度に10回にわたってのべ566名のボランティアを福島県南相馬市などへ派遣。また、2015年9月の豪雨で堤防が決壊し被害に見舞われた茨城県常総市にもボランティアを派遣しました。



以前からグループのボランティア活動に関心はあり、本社への異動を機に参加しました。常総市では床上浸水した家の床をめくってニス塗る作業をしました。深刻な被害を目の当たりにして、私たちはいざというときにお客さまの安全をどう守るべきか、あらためて考えさせられました。

管理本部 総務部
マネージャー
中川 博幸



福島へ行くと小中学生の娘たちに心配されましたが、作業する場所の線量が掲示され、安心して参加できる環境でした。バスから見た帰還困難区域の光景は凄まじく、普通の生活がいかに幸せか実感しました。一歩踏み出す勇気をもって参加してよかったと思います。

開発本部
建設企画統括部
企画開発部
清水 真理



被災から約2ヶ月経つ常総市を訪れましたが、仕事を終えてからの復旧作業が毎日続く家主のご主人はひどくお疲れでした。何かできるのかとためらうのではなく、参加してできることをやればよいと感じました。他の社会貢献活動も、できることはどんどんやろうと思うようになりました。

管理本部 経営企画部
CSR推進グループ
細谷 美紀



震災当時はオランダ在住で、現地にてボランティア活動を行いました。今回初めて被災地を訪問し実際に南相馬のお宅で作業することで、原発事故の深刻さを実感しました。現地の方をお願いされた通り、自分で見たことを数多くの人に伝えていこうと思います。

管理本部
総務部
那須 奈々絵



初めて会う現地の方に信用していただけるか少し心配でしたが、私が身につけていたビブスを見て「イオンの方が来てくれたんですね!」と安心していただけました。会社への社会的な信頼を感じ、その信頼をさらに高めていくことができるよう取り組みたいと思いました。

管理本部
人事統括部
教育部
長谷川 睦美



個人で参加するきっかけを見つけられず、会社での募集にありがたく参加しました。震災当時から放置されたビニールハウスや畑を片付けたのですが、体力的にはきつかったですね。帰ってから所属部署で報告をしたところ、上司や同僚が熱心に耳を傾けてくれました。

開発本部
建設企画統括部
企画開発部
金子 美和

